

きょうの発言

何かの機会に、会社の歴史を話すことがある。すると、よくこんな質問を受ける。

「一体、何代目ですか」

私は、自戒しながら答える。

「『売り家と唐様で書く三代目』

という、創業して三代もたつと家が売りに出されるという意味の川柳がありますね。私は幸い五代目ですから、何とか会社をつぶさずやっています」

最近、大手企業の二世経営者がマスコミをにぎわすことが多くなった。批判的な論調が多い

し、実際に経営責任を問われ、退陣に追い込まれたケースも出てきている。マスコミの格好のネタとあって、必要以上に取り上げられるきらいがないでもない。

世の中には、立派な経営をしている二世経営者は数多くいる

二世経営者

わけで、それはごく当たり前のこととして、マスコミの興味をひかないということも考えられる。とはいえ、私もいわば同じ人種に属するものの一人として、人ごとでは済まされない。二世経営者には、中小企業にとつては得難い人材、オーナー

としての危機意識と会社に対する忠誠心、親が築いた信用と人脈、長期的視点、帝王学を学ぶチャンス、決断しやすい立場といったメリットがある。一方、デメリットとしては、公私のけじめがつかない、ワンマンになりがち、サラリーマンとしての苦労知らず、能力不足、過剰社交といったことがあげられよう。

この点、親は後継者としての教育に頭を悩ますことになるわけだが、結論からいえば、本人の努力と自己規制によるところが大きい。要は、メリットを生かし、デメリットをいかに克服するかということだが、変革の時代にあつて、後継者の責任は重くて大きい。

亀井通産社長 (井通産)
創太郎 (太郎)
亀井 (めい)